

ヨナス ルンド

ヨナス・ルンド(1984年生まれ)は、現代のネットワーク化されたシステムや支配的な権力構造を批判的に考察した絵画、彫刻、写真、ウェブサイト、パフォーマンス作品を制作している。彼の芸術活動は、しばしば鑑賞者の関与を必要とするシステムの構築やパラメータの設定を伴う。その結果、アルゴリズムや一連のルールに従ってタスクが実行されるパフォーマンス的な作品が生まれる。ルンドは自身の作品を通じて、現代社会のデジタル化の進展によって生じる「作者性」「参加」「主体性の分配」といった最新の課題を探究している。同時に、彼はアート界の仕組みに疑問を投げかけ、制作プロセス、権威的な力、そしてアート市場の慣行に異議を唱えている。

[履歴書および詳細情報はこちら](#)

ネットワークのメンテナンス（2026）

「ネットワーク・メンテナンス」は、所有、ケア、そして集団的責任の関係性を探求する、ネットワーク化された壁掛け型インターフェースのシリーズである。各作品は、ディスプレイとさまざまなアナログ制御装置を内蔵した、ミニマルな特注の筐体で構成されている。これらの作品は相互接続されたシステムにおけるノードとして機能し、各所有者の関与がネットワーク全体の活力を直接左右する。

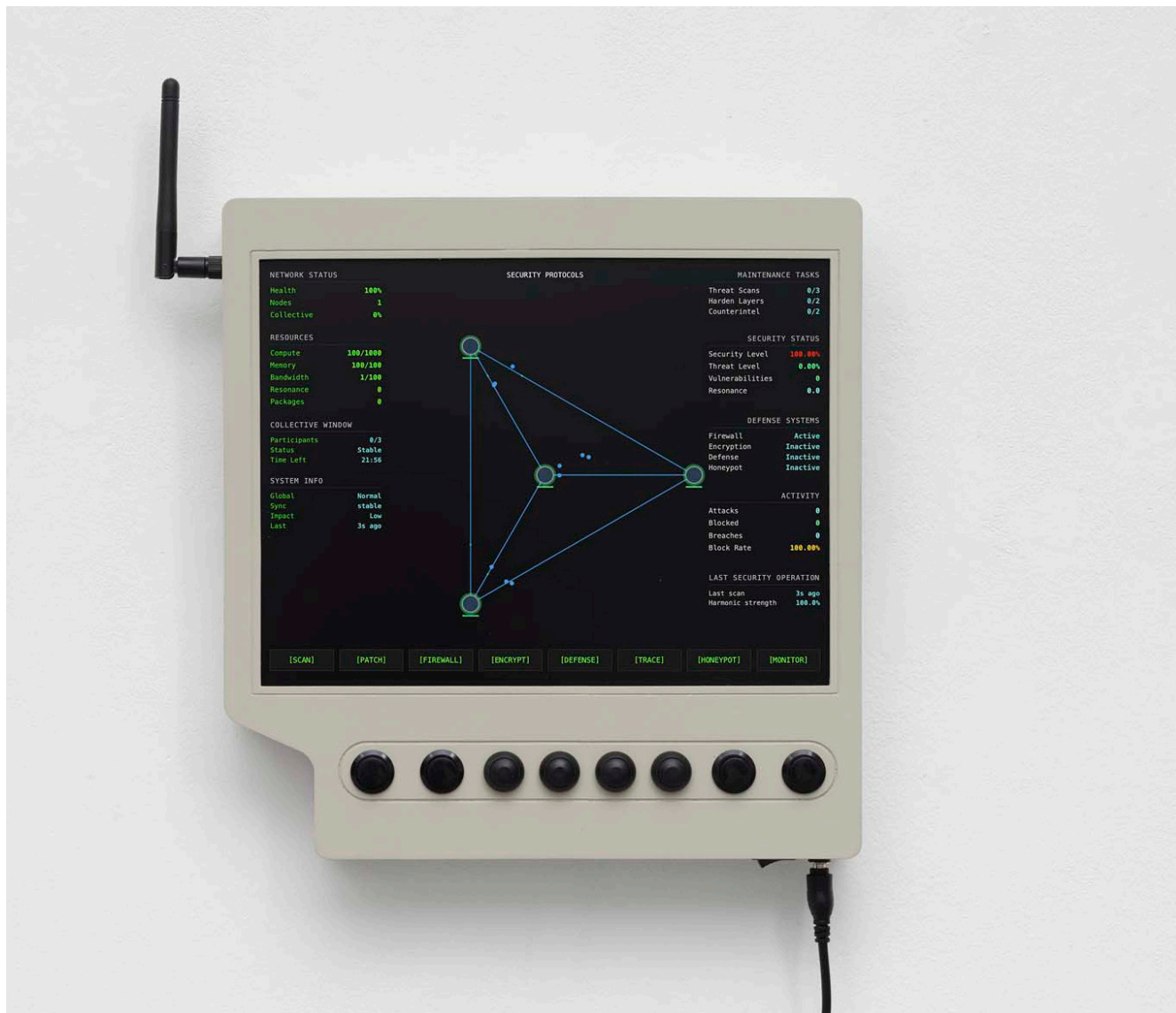
このインターフェースは、所有者による定期的な操作——特定の順序でボタンを押すことや、変化するパターンに反応すること——を必要とします。これにより、芸術作品を所有するという従来の受動的な役割が、生き物のようなシステムへの能動的な参加へと変化します。適切な手入れが行われないと、個々の作品に劣化の兆候が現れ始め、それ自体が影響を受けるだけでなく、シリーズを構成する作品群全体にも影響を及ぼします。

量子力学から着想を得たこのアート作品は、量子もつれや重ね合わせの原理を表現しています。量子もつれ状態にある粒子が距離に関係なく瞬時に互いに影響し合うのと同様に、各所有者の行動は、インストールのネットワーク全体に波及効果をもたらします。このシステムは、複数の潜在的な状態を同時に保持しており（量子重ね合わせ）、観測され、相互作用があった場合にのみ、特定の構成へと「収束」します。

各インターフェースには、ネットワークの健全性指標である安定性、応答性、接続性を反映したさまざまな視覚的状态が表示されます。所有者は、操作を通じてコアリソース（演算能力、帯域幅、メモリ）を維持する必要があり、それは個々のノードだけでなく、エコシステム全体にも直接的な影響を及ぼします。各ディスプレイ上で生成される抽象的な構成は、こうした複雑な関係を可視化し、ネットワーク全体の健全性と相互接続性を表現しています。

この作品は、責任、共同体、そして個人の行動と集団的な結果との関係といったテーマを批判的に考察している。そこには、私たち相互のつながりが、現実そのものの量子的な構造と同じくらい根本的なものであるかもしれないという示唆が込められている。「ネットワーク・メンテナンス」は、私たちを支えるより広範な生態学的・社会的ネットワークについて考えさせるものであり、目に見えないネットワークに対する注意、配慮、そして責任が、私たち人間が共有する経験の不可欠な要素であることを浮き彫りにしている。

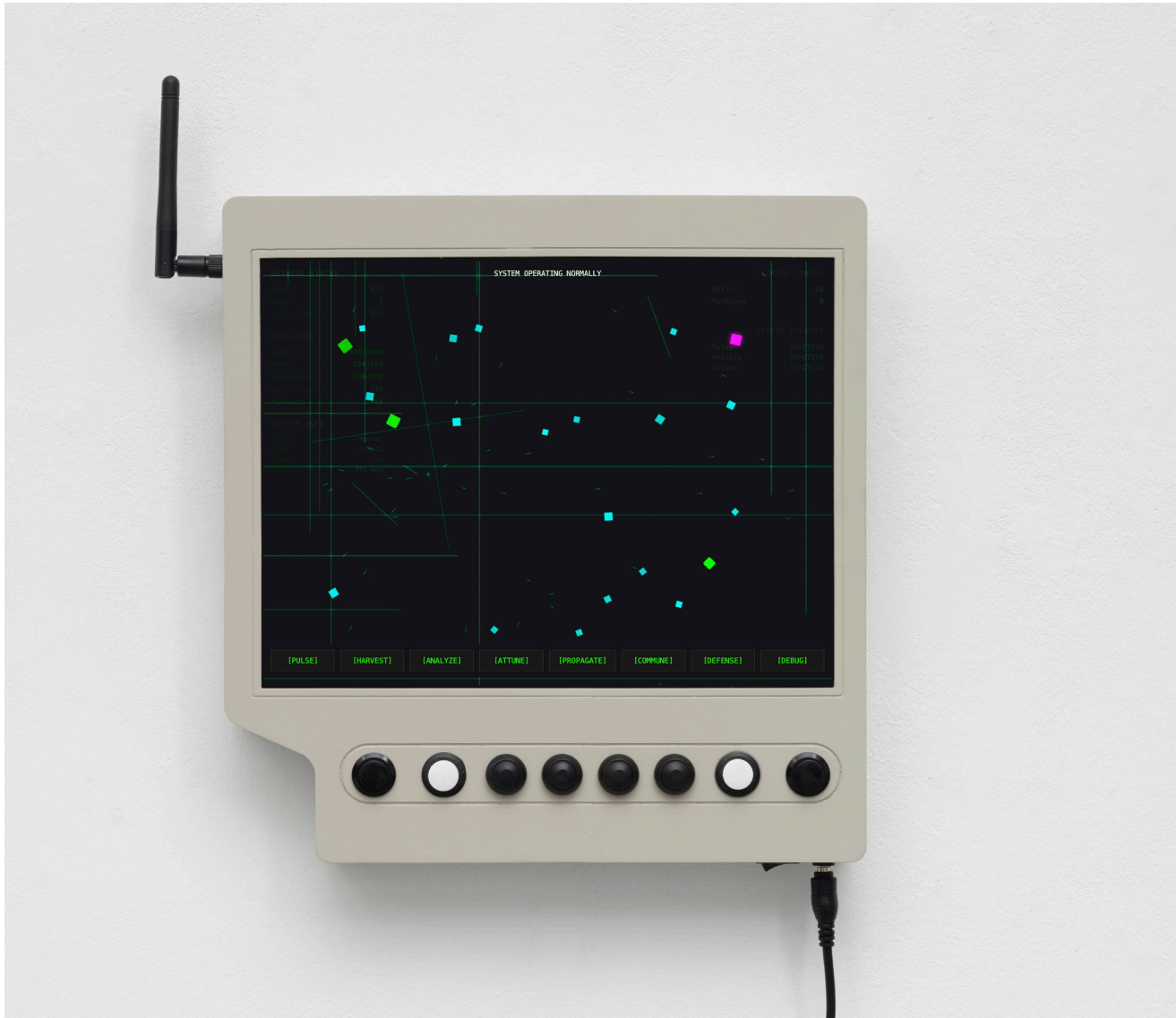
<https://network-maintenance.com>



ジョナス・ルンド
『ネットワーク・メンテナンス #10』、2026年
ポリ乳酸、特注ハードウェア、ソフトウェア
27.5cm × 28.5cm × 4.5cm
9,500ユーロ(税別)



ジョナス・ルンド
『ネットワーク・メンテナンス #10』、2026年
ポリ乳酸、特注ハードウェア、ソフトウェア
27.5cm × 28.5cm × 4.5cm



ジョナス・ルンド
『ネットワーク・メンテナンス #13』、2026年
ポリ乳酸、特注ハードウェア、ソフトウェア
27.5cm × 28.5cm × 4.5cm
9,500ユーロ(税別)

ジョナス・ルンドのその他の作品は[こちら](#)でご覧いただけます。

[OFFICE IMPART](#)

info@officeimpart.com